



たなべこと
田邊琴子さん

出身大学：メリーランド大学カレッジパーク校
在籍した時期：小学部1年生から高等部2年生までの11年間
現在：メリーランド在住、日系企業にてマーケティングを担当

Q. 日本語学校はどんな存在でしたか？楽しかった思い出は？

お母さんのお弁当と日本語で話す友達に会える土曜日は、少し特別なものでした。全校生徒が集まる運動会は、毎年楽しみにしていました。低学年の時は、中学生や高校生が、とっても大人に見えたのを覚えています。

Q. 卒業まで続けてよかったと思うことは？

高校の卒業式を迎えた時、解放感と達成感を強く感じたことを思い出します。途中でやめたいと思ったことはあまりなかったと思います。高学年になると、日本語学校での目的意識の違いから授業への取り組み方の差が出ますが、それはそれでおもしろい部分でもあったように思います。



運動会は一番の思い出
小学5年生の田邊さん

Q. 日本語学校での経験が役立っていると思うことは？

現在、日系企業に勤めており、バイリンガルであることが非常に役に立っております。日本に出張した際は時々、英語が母語であることに日本の方が驚きます。また、出張時に日本で祖父母の家に一泊はするのですが、三人でお酒を飲みながら（三人ともかなりいけます）色々なことを話します。アメリカのこと、日本のこと、仕事や祖父母の健康のこと。たくさん笑って、たくさん話して、時差ボケと少し二日酔い気味の翌朝は、「日本語できてよかったなあ」と小さな幸せを感じる瞬間があります。みなさんも、そんな小さな嬉しい気付きを少しずつ紡いでいって、日本語の勉強を継続する力としていくのもいいかもしれません。



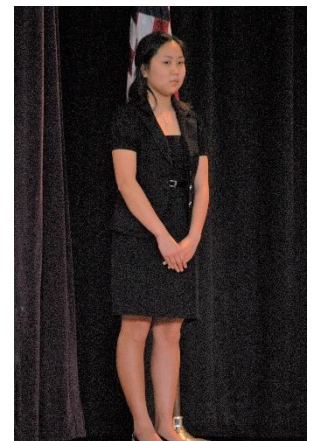
迷わず高等部進学を決意
中学部の卒業式

Q. 在学中に保護者が担った役割や感謝していることは？

今、親に感謝していることは、日本語学校の宿題のサポートに加え、現地校の部活動と両立できるようにスケジュール管理をしてくれたことです。

Q. 進学や将来の方向性を決める際、日本や日本語が影響を及ぼしましたか？

大学の日米学生協会に所属し、厚生労働省の第二次世界大戦に関連する調査のアルバイトに参加することもできました。大学のランゲージ・ハウス（共同生活を通して様々な語学を習得する仕組み）で日本語寮長として日本語を学ぶ学生に接し、収入を得ることに繋がりました。就職時は、バイリンガルであることを生かせる職場を選択しました。



大きな満足感を味わえた
高等部の卒業式

Q. 在校生へのメッセージ

バイリンガルになることは、思っている以上に長い時間と努力が必要です。焦らずじっくり勉強してみてください。皆さんがこれから迎えるであろう、“未来”と、“みらい”と、“ミライ”と、“MIRAI”が素晴らしいものであるよう心より願っています。頑張ってくださいね。